議会報告会実施報告書

開催日時	令和 7年 2月 6日 (木) 13時～ 14時45分	
開催場所	明石市役所議会棟2階 第3委員会室	
テーマ	防災について	
出席議員	委員長	梅田宏希
	司会者	寺井吉広
	記録者	中川夏望
	その他	正木克幸、家根谷敦子、榎本和夫、千住啓介、国出拓志 (以上、総務常任委員)
参加人数	鳥羽まちづくり協議会 1名 沢池校区まちづくり協議会 1名 錦が丘校区まちづくり協議会 2名 藤江校区まちづくり協議会 2名 魚住まちづくり協議会 4名	
報告内容	<p>○市議会からの報告「災害に備えて」(国出拓志委員)</p> <p>【南海トラフについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率は80%程度と言われている。 ・マグニチュード8クラスと想定される。 <p>【明石市の想定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揺れによる被害は東部地区を中心に最大震度6強、全壊棟数2,313棟。 ・津波による被害 市は2m、到達まで115分を想定している。2時間もあると考えるのは論外。 <p>【自助共助について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは自分で自分を守ることが重要。3日から1週間分の備えを。 ・避難所を確認すること。 ・自助、共助、公助の比率は7：2：1 ・是非明石市のLINE公式アカウントの登録を。 <p>○参加者からの取組報告(藤江校区まちづくり協議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区防災会を立ち上げている。 ・自分と家族の命を守る(自助)、次に隣近所の助け合い(共助) ・72時間の壁があり、公助の助けは期待できない。 ・校区より自治会での体制強化が最優先と考えている。 ・住民の防災意識向上、自治会へ助成金で支援、自治会のリーダー育成、モデル地区の選定 ★この3年間のモデル地区は今崎野自治会 ・自助のために、我が家の防災手帳を全戸配布。各家庭で家族会議をし、記載してもらおう。備蓄の確認、家族間の連絡の取り方などを記載している。 ・自治会長や地域住民を集めて、市がどのような取り組みをしているのか、校区防災全大会で講演を実施している。年に1回。危機管理監に参加してもらっている。 ・子どもたちにも勉強してほしいということで、今年から藤江小学校4年生を対象に防災教育を行っている。来年も継続予定。 ・各自治会のリーダーを育てる。各自治会から2名ずつ地域防災推進員を選出し、そ 	

	<p>の方を対象に「地域防災推進員研修会」として年4回研修会を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区防災訓練を行っている。今年のテーマは遊びながら防災を学ぶ。自主防災機材、AED、避難経路でどう避難するのかをゲーム感覚で避難対策を考える、的当てゲームで消火訓練、消防車に試乗など ・阪神淡路大震災、能登半島地震の写真展示を行う。 ・簡易トイレの組み立てを学び、各自治会に配布。各家庭への啓蒙になるように。 ・個別避難計画と避難訓練を積極的に行う。 ・フレイル予防で防災力アップ、フレイルを予防し、自ら避難できる高齢者を増やすことを目的としている。 ・校区で活躍するフレイルサポーターを増やすため、校区でフレイルサポーター養成講座を開催。 ・今崎野自治会のモデルケース。 <p>① 隣近所のつながり 見守り活動を目的に、ボランティアでお助け隊を結成。毎月1回開催。班に分かれてお助け隊が高齢者宅を訪問し、情報収集を行い、困りごとを聞き、安否確認をする。ここで得た情報を次につなげるような活動を行っている。</p> <p>② 個別避難計画の作成 計画に基づき避難訓練を行う。</p>
<p>報告内容に関する意見交換</p>	<p>【各自治会の防災の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥羽まちづくり協議会 コロナ以降防災に関する活動が停止している。主要メンバーの不幸などが相次ぎ、活動できていない状況。野々池地区で実施している西明石活性化推進協議会において上ヶ池公園で何ができるかの取組を市に提案している。その中で防災訓練を実施したいと考えている。 ・沢池校区まちづくり協議会 3年で年1回自主防災訓練を実施。講師を招いて座学を実施。防災食の試食会。子供がたくさん参加し、子供が食べられるものが把握できたとの声があった。あまり活動はできていなかったが、地域住民の安全を守るため、防災手帳の配布や防災訓練の実施を考えていきたい。 ・錦が丘校区まちづくり協議会 日常としてはこれと言って取り組んでいない。災害の経験から、人と人の絆を築くことが大事と認識した。30年前から比べて高齢化が進んでいる。被災者の孤立化に対し、月に1回公園の清掃活動を実施し、30分くらい高齢者から子ども連れのお母さんに来てもらって顔のわかるまちづくりを行っている。その次に減災をどうするのか取り組んでいきたい。緊急連絡網の作成。10分以内に緊急内容が伝わった。内閣府作成の非常持ち出しチェックリストを印刷し、班長、町内会に配布。今年は防災講座を実施した。 ・藤江校区まちづくり協議会 お願いごとになるが、危険な藤江川を通らなければならないので、避難所（小学校）まで避難する人が少ないと想定される。一時避難所の備蓄品が欲しい。公民館の耐震補強がされていないところがあるので、何とかしてほしい。 ・魚住まちづくり協議会 まちづくり協議会ができて10年目。初年度から防災は柱の1つとして取り組んでいる。共助で17という組織を立ち上げている。メンバーは地域の方はもちろん、明石高専の先生、地元の先生、市の職員など。訓練は年度末に行っている。訓練に向けて、年内に検証訓練を重ね、年度末に訓練を行っている。自助としては防災手帳のようなものを作成している。避難者と市を繋ぐためまちづくり協議会が橋渡しすることが重要だと考えている。情報が明石市に届かないと意味がない。安否確認カードを配布し、自分がどこにいるのか知らせるツールを用意している。避難所開設の訓練を行っている。市役所の方が来る前にできることは自分たちでということを実践している。市の職員と避難訓練に向けて4回話し合いをし、それをもって3月に全体訓練を実施する。今回は初めて市役所の方と一緒に避難所開設の訓練を計画している。避難生活に向けて一歩踏み出せたと考えている。

【議員からの質問】

・正木委員 他の校区と意見交換ができて有意義な機会となった。まち協同士で集まってこのような情報交換をすることはあるか。

→(藤江) 防災に関する意見交換が2回ほど。

・正木委員 もっと小さい単位での意見交換の場があれば役に立つのではないか。

→(藤江) 温度差がありすぎるのではと思うが、2か月に1回の連合まちづくり協議会の場で5、6人の島になって話す機会があるのでその時に話すことができるのではないか。

・千住委員 個人情報を取りにくいご時世で、連絡網を作ったのが素晴らしい。ネガティブな意見はなかったのか。

→(錦が丘) ほとんどなかった。電話と名前のみ。そもそも自治会に入るときに聞いている情報。

(藤江) 家族構成は最たる個人情報だが、助けるために必要。個人情報の管理方法を説明したうえで細かい情報の提供をお願いしたが、9割の方が提供してくれた。自治会の関係性によるものではないか。信頼を守るためにも個人情報の保護は絶対。

・中川委員 新しい住民、若い世帯はどのように取り込んでいるのか。

→(魚住) 大きいイベントで子供を含めて顔見知りになる。5年生に防災教育を行っている。子供から保護者に広がって自治会への関与が広がっていけばいいと思っている。回覧物は自治会を頼るので7割程度しか届いていない。アンケートも実施したが、なかなか難しい。あとはホームページの掲載くらいしかないと考えている。

(藤江) 防災福祉会は自治会に入っていない方も入れる。見守り活動のほか、凧上げ大会、餅つき大会など楽しい行事を入れている。顔つなぎはできているのかと思っている。そこで参加してくれた若い人を前に出すようにしている。公式LINEアカウントを活用している。

(沢池) 自治会の加入率が下がっているということもある。自治会がない場合、どのように案内するのが課題。また、自治会の会長が1年交代で変わってしまうと継続すべき取組が進まない。

・榎本委員 人材はどのように発掘・育成しているのか。

→(魚住) 自分の命、家族、隣という小さい単位が大切。公助まで個人情報は必要でない。安否確認カードだと個人情報は必要ではない。

(沢池) イベントの目的は顔見知りを増やすこと。それをきっかけに巻き込んでいきたいと考えている。ただ、若い人を入れると忙しくて参加できないということが起きる。充て職でも会議に来てくれる人を確保しないと会議体として成り立たない。

(藤江) 若い人は平日忙しい、土日も参加できない。各行事をきっかけに声をかけて一人でも多くのサポーターを取り込む。その人たちをまちづくり協議会の部員に引き込む。PTAと同じく、ちょっとお手伝いしたいけど役員まではできないという人は多い。どれだけ裾野のサポーターをたくさん作るかも人材確保の方法の1つかと考えている。人材はいるけど大きな役をする人材はいないのが現状。

・家根谷委員 安否確認目的でも個人情報を開示してもらえない。まちづくり協議会の方のされている活動、人と人とのつながりが重要だと思った。

→(藤江) 福祉避難所の充実を図ってほしい。寝たきりの方などは福祉避難所でないといけない。安心材料を提供したいが、明石市の福祉避難所は少ない。公民館、小学校では間に合わない。その上で、民生委員、市が連携しなければならない。

・国出委員 自治会の防災にも取り組んでいる。今回は参考になる話がたくさん聞けた。できることから挑戦していきたい。地域を守ってくださる皆さんに感謝の一言。

・寺井委員 最後に言いたいことはないか。

→(魚住) 公助の役割も重要だが、明石は弱いのではない。備蓄は公助でなければできないところ。地域と一緒にお金もかけて備えを行ってほしい。避難所は勝手に開

設できない。ソフト面も進めてほしい。

(藤江) 各自治会に備蓄品を置くための防災倉庫を設置してほしい。

(沢池) 体育館が 2 階。高齢者や障害者はどうしていくのか。備蓄倉庫の非常食や布団の数がたりないのでは。また備蓄倉庫は職員の方しか鍵を持っていない。運営をどうするのか考えてほしい。

(錦が丘) 市とまち協の連絡手段はどうするのか。防災協定を多くの法人と結んでほしい。避難所の収容人数は足りない。その場合どうするのか整備を考えてほしい。公民館は耐震化しても無駄ではないかという話もある。防災の計画を立ててほしい。

明石市議会議長 辰巳浩司様

令和 7年 2月 7日

上記のとおり報告します。

総務常任委員長 梅田宏希